事例No.	1058
公表年度	R2
団体の属性	中核市
団体名	長崎県佐世保市

事例区分	公営企業

タグ	・交通事業 ・（行政改革）業務の効率化

事例種類	公共交通再編

事例内容・タイトル

バス運行体制一体化を柱とした公共交通再編

出典

地方公営企業の抜本的な改革等に係る先進・優良事例集

交通：事例8

○ 事例名等

事例名	バス運行体制一体化を柱とした公共交通再編
団体名	長崎県佐世保市
事業名（事業区分）	交通事業（自動車運送）

○団体及び事業の概要

行政区域内人口（人）	249,949人	行政区域内面積（㎢）	426.1
事業開始年月日	昭和2年3月30日	営業路線（km）	163.9km
年間走行距離（km）	2,913,000km	年間輸送人員（人）	6,011千人
在籍車両数（両・台）	0（平成30年度末時点で譲渡済のため）	職員数（人）	24人

※上記表中の「行政区域内人口」は、平成31年1月1日時点。「行政区域内面積」は、平成30年10月1日時点。それ以外の計数は、H31年3月末時点。

1．取組の背景、検討を開始した契機・導入過程

(1)取組の背景
・佐世保市は、バス分担率が14%と全国でも高い状況にある一方、中心市街地では複数系統が輻輳して競合状態にあり、人口減少や少子高齢化の進展に伴い、市内バス事業者3社の経営環境が厳しい状況であった。
・将来的に持続可能な公共交通網形成に向け、平成27年6月に佐世保市地域公共交通網形成計画を策定し、さまざまな調査検討を重ねた結果、複数のバス事業者が競合しているバス運行体制の抜本的な改革が必要となり、「交通局を廃止し、西肥自動車に路線を集約したうえで、させぼバスが一部路線の受託運行を担う」との結論に至った。
・平成31年3月24日、市内バス運行体制の一体化を柱とするバス路線網の再編を実施した。

(2)検討を開始した契機・導入過程
平成27年6月　佐世保市地域公共交通網形成計画策定
平成28年5月　地域公共交通再編に向けたアクションプラン策定
形成計画の4つの基本方針の1つである「利便性を維持した持続可能なバス事業を実現する」関連施策について具現化するための調査検討事業を実施。コンサルタント事業者の調査結果としては、現行のバス運行体制のままでは、それらの施策の実現が困難であり、バス運行体制一体化による解決策が提案される。
平成31年2月　佐世保市地域公共交通再編実施計画認定
アクションプランに沿って調査検討を行った結果、市の方針として「交通局を廃止し、西肥自動車に路線を集約したうえで、させぼバスが一部路線の受託運行を担う」という結論に至る。
交通局廃止後のバス事業の継続及び路線再編について、民間事業者である西肥自動車㈱と市の協議を中心にすすめながら再編実施計画策定。
平成31年3月24日　バス運行体制一体化

平成31年3月31日　佐世保市交通局廃止

2. 取組の具体的内容とねらい、効果

(1)取組の具体的内容とねらい
〈主な再編内容〉
バス運行体制一体化前後のバスの状況

○一体化前

No	バスの所有会社（路線認可を受けている）	運転士所属会社	バスの色	バス車体に表記している会社名	備考
1	西肥自動車(株)	西肥自動車(株)	シルバーブルー	西肥自動車(株)	西肥バスの自社運行
2	佐世保市交通局	佐世保市交通局	レモン	佐世保市交通局	市営バスの自社運行
3	佐世保市交通局	させぼバス(株)	レモン	佐世保市交通局	市営バスの委託運行
4	させぼバス(株)	させぼバス(株)	レモン	させぼバス(株)	させぼバスの自社運行

○一体化後

No	バスの所有会社（路線認可を受けている）	運転士所属会社	バスの色	バス車体に表記している会社名	備考
1	西肥自動車(株)	西肥自動車(株)	シルバーブルー	西肥自動車(株)	西肥バスの自社運行
2 3	西肥自動車(株)	させぼバス(株)	レモン	西肥自動車(株)	西肥バスの委託運行
4	させぼバス(株)	させぼバス(株)	レモン	させぼバス(株)	させぼバスの自社運行

バス路線維持に向けたダイヤ編成
【利用状況に合わせたダイヤ、路線、経由地の整理】
効率的な運行のため、長崎スマートカード（ICカード）の乗降データを分析し、利用状況を踏まえた運行ダイヤや行き先設定、系統整理を実施。

【昼間の時刻表の等間隔化】
昼間帯の運行ダイヤを一定間隔とする「等間隔化」を行い、利用しやすいダイヤを設定。

【区間運行バスの設定】
地域内を結ぶ補完的なバス路線については、効率的な運行のため時間帯によって行き先を地域内主要バス停に変更。

【バス運行本数の適正化】
全国的な運転士不足もあり、路線維持のため運行本数を削減。
・運行本数が多い中心市街地の競合区間は平成27年時点から約27.5%の本数削減。
・非競合区間では約17.6%の本数削減。
また、佐世保市では郊外から市内中心部へ流れ込む長距離路線が多く存在しており、支線の本数を極力減少させないため、南部方面からの路線を市中央部での折り返し運転としている。

その他の利便性向上策
○共通定期券の設定
西肥自動車㈱、させぼバス㈱の自社路線との競合区間について、どちらのバスにも乗れる共通定期券を導入。
○低床バスの導入促進
バス事業の効率化も図られることから、計画的な低床バスの導入を推進していく。
○全国共通ICカードの導入
現行の地域カードである長崎スマートカードの老朽化により、令和2年6月から全国交通系ICカード「nagasaki nimoca」を導入している。
○佐世保駅前のバス乗り場の整理
一体化前の佐世保駅前バス乗り場は、行き先が同じ方向でも事業者によって乗場が違い、利用者にとって分かりにくいものであった。一体化後はこれを改善し、同じ行先の便は同じ乗場で乗降できるように整理した。

【バス運転士の退職派遣】
本市の地域公共交通の利便性を確保するため、平成30年度をもって廃止となった佐世保市交通局に在籍していたバス運転士等について、「公益法人等への一般職の地方公務員の派遣等に関する法律」及び「公益法人等への佐世保市職員の派遣に関する条例」に基づき、させぼバス㈱に平成31年度から3年間を上限として退職派遣することから、人件費コストの補填財源対策として、市営駐車場事業の運営を行わせている。

(2)効果
バス運行体制の一体化により、昼間帯のバス運行の等間隔化、路線の経由地の整理、定期券の共通化、バス乗り場の統一等、利用者に分かりやすく利用しやすいものとなった。

3．他の自治体の参考となる点、今後の課題等

(1)他の自治体の参考となると考えられる点
持続可能なバス事業を実現するための事業再編、サービスの見直し

(2)今後の課題等
運行本数の減により、バス車内が込み合う状況が発生しており、それに起因する遅延も発生している。
バスの利用状況や交通事業者、利用者の意見等を踏まえ、現行の再編実施計画の課題・問題を分析、検証し次期改訂に向けた検討を行う。

〇問合せ先

担当課	佐世保市企画部地域交通課		
TEL	0956-24-1111	MAIL	koukou@city.sasebo.lg.jp